中学3年生の生活意識に関する一研究*

久世敏雄　原田唯司[1)]　後藤宗理[2)]
宮沢秀次[3)]　二宮克美

I　問題と目的

青年前期すなわち中学生にあたる時期は，児童期までの比較的安定していた自我に動揺が始まるとともに，親など周囲の束縛を断ちきり，将来を展望しつつ新しい自分を模索し，追求していくことが求められる時期である。第二次性徴を始めとする急激な身体的，生理的な変化は，もう子どもではないという自覚を促す契機になるであろうし，またそれが家族とくに親からの精神的自立の獲得に影響していく。同時に，これが自分なのだという実感，すなわちアイデンティティの確立にむけて種々の「生みの苦しみ」を味わわなければならない。この時期の心理的特徴を表現する用語として，従来から「疾風怒濤」「第二反抗期」「心理的離乳」「第二の誕生」などが使用されているのは，自己形成や自我の再構成に伴う青年自身の悩みや苦しみの存在に注目しているからであろう。

また，中学生という時期は将来の人生選択に直接的に関わりのある選択を初めて主体的に行うことが期待される時期でもある。高校進学率が全国平均で94%に達し，高校教育が事実上準義務教育化している今日では，大多数の中学生にとっての最初の進路選択は，単に進学か就職かということではなく，むしろ普通科か職業科の選択，いわば学科や課程の選択であるといえよう。進路の選択は本来的には個々の中学生が自分の能力，適性，興味・関心に基づいて主体的に行なうべきものであろうが，現実には学業成績の程度によって，半ば強制的，機械的に進学先をふるい分けられてしまうことが多い。主体的にどのコースでも選択し得る者は成績上位者に限られ，成績が下位である者ほど自己の進路決定に主体性を発揮できる程度は小さくなっているのが実情であろう。竹内（1979）は，中学生の進学という語のイメージが就職という語のそれと比較して否定的であることを指摘しているが，故ないことではなかろう。

このように，中学生という時期は，一個の独立した人格としての自己を形成していく目覚めの時期であると同時に，自己の将来的展望を形造っていかなければならない時期でもあるといえよう。こうした状況に置かれている中学生は，日常生活の中でどんな意識を持っているのであろうか。また，自己の進路についてはどんなことを考えているのであろうか。

久世・後藤（1982）は，名古屋市内の公立中学校3年生1272名のうち，高校への進学を希望する者1213名を対象として，希望する学科別（普通科か職業科か）および男女別に，進路選択の際に重視する要因，進路選択における主体性の程度，受験校や将来の職業などを決定する時の自己決定の程度などを比較した。その結果，普通科を希望する男子は，職業科を希望する男子よりも自己の学力を重視していること，また，普通科希望者は，職業科希望者に比べて，進路，将来の職業，受験勉強の方法を決定する際の主体性の程度が高いことを見出した。一方，久世・原田ほか（1981）は，普通科希望者をさらに学校群に含まれる公立高校を希望する者，学校群に含まれない公立高校を希望する者，私立高校を希望する者とに分け，進路選択の際に重視する要因，進路選択における主体性の程度などのこれら3群間の相違について検討した。その結果，同じ普通科高校を希望する者であっても，学校群に含まれる高校を希望する者ほど，進路選択に際し自己の学力をより重視し，主体性の程度も高いことなどが明らかにされた。

今回の報告では，久世・後藤（1982）の研究で収集されたデータを基にして，中学3年生は現在どんなことに関心が高く，どんなことに悩みを持っているかなど，日常生活に対する意識の実態を明らかにし，さらに，現在の悩みの有無や内容によって，進路選択の際に重視する要因など進路選択に関する意識や，中学校生活に対する満足感などにどんな相違がみられるのかについて検討することを目的とする。

＊本研究の資料分析のための計算は，名古屋大学大型計算機センターFACOM M-200によった。

1）名古屋大学大学院教育学研究科博士課程（後期課程）（現所属　静岡大学教育学部助手）
2）名古屋市立保育短期大学講師
3）市邨学園大学講師

Ⅱ　方　　法

1　質問紙の内容

日本教育学会入試制度研究委員会（1978）が作成した項目を参考にした。質問紙は，①中学卒業後の進路と進路選択に関する意識，②中学校生活の満足感，③友だちとの会話の内容と程度，④関心の対象，⑤問題別にみた判断のよりどころ，⑥悩みの有無と内容に関する項目によって構成されている。なお，使用した質問紙を末尾に掲載した。

2　調査対象

名古屋市内の22校の公立中学校３年生1272名（男子655名，女子617名）を対象とした。なお，このうち進学希望者は，男子616名，女子597名，合計1213名で率にして95.4％に達している。

3　調査時期

調査は，1979年２月下旬から３月中旬にかけて行った。調査対象である中学３年生の大多数にとっては，私立高校の受験はほぼ終了し，公立高校の入試が目前に迫りつつある時期である。なお，調査の実施は各クラスの担任の先生に依頼した。

Ⅲ　結　　果

1　生活意識の全体的傾向

（1）　関心の対象

中学３年生が現在どんなことがらに関心を持っているのかを知るために，あらかじめ挙げておいた24個の対象から，もっとも関心のあるものを３つ選択させた。表１は，男女ごとに，選択率の上位下位それぞれ７項目を示したものである。

まず選択率の高い項目についてみてみると，男女とも「音楽」「旅行」など趣味に関することがら，「受験」のこと，「友だち」「異性」などに対する関心が高いことがわかる。これら５項目は，男女間で共通して選択率の高い項目であるが，この他に男子では「映画」「スポーツ」，女子では「将来の生活」「ファッション」が上位７項目の中

表１　関心の対象の上位，下位７項目

順位＼性別		男子		女子	
上位	1位	音楽	(31.6)	友だち	(36.3)
	2位	受験	(28.3)	受験	(34.7)
	3位	異性	(27.5)	音楽	(26.6)
	4位	旅行	(26.9)	異性	(26.0)
	5位	友だち	(26.4)	将来の生活	(23.1)
	6位	映画	(25.5)	ファッション	(22.7)
	7位	スポーツ	(24.3)	旅行	(21.5)
下位	18位	就職	(2.8)	性	(2.6)
	19位	学校生活	(2.6)	テスト	(2.2)
	20位	テスト	(2.5)	家族	(1.9)
	21位	家族	(1.1)	政治・社会	(1.6)
	22位	学校行事	(0.3)	先生	(0.8)
	23位	生徒会，先生	(0.2)	学校行事	(0.3)
	24位			生徒会	(0.2)

（　）内の数字は百分率を示す。

表２－１　悩みの有無

悩みの有無＼性別	男子		女子		計	
悩んでいる	412	(62.9)	425	(68.9)	837	(65.8)
悩んでいない	243	(37.1)	192	(31.1)	435	(34.2)
計	655	(100.0)	617	(100.0)	1,272	(100.0)

$\chi^2 = 4.89$，df＝1，$p < .05$

（　）内の数字は百分率を示す。

表2－2　悩みの内容

男子			女子		
受験	109	(26.5)	受験	142	(33.5)
生き方	66	(16.1)	進路	52	(12.3)
進路	58	(14.1)	身体・性格	40	(9.4)
成績	41	(10.0)	友人関係	40	(9.4)
異性との交際	40	(9.7)	生き方	37	(8.7)
身体・性格	28	(6.8)	成績	33	(7.8)
勉強の仕方	24	(5.8)	異性との交際	22	(5.2)
友人関係	14	(3.4)	勉強の仕方	22	(5.2)
家庭	4	(1.0)	家庭	18	(4.2)
その他	27	(6.6)	その他	18	(4.2)
NA	1		NA	1	
計	412	(100.0)	計	425	(100.0)

(　) 内の数字は百分率を示す。

に含まれていることが特徴的である。

つぎに，選択率の低い項目についてみてみよう。男女共通して「生徒会」「学校行事」「先生」「家族」「テスト」などは，ほとんど関心が持たれていない項目である。また，男子においては「学校生活」「就職」が，女子においては「政治・社会」「性」に対する関心が低い。

以上から，関心の高い項目，低い項目として挙げられた項目は性別によってわずかに相違があるものの，全体としては，受験，自分の趣味に関すること，友人などに対する関心が高く，学校生活のうち，学校行事や生徒会活動に対する関心は低いようである。

（2）　悩みについて

それでは，中学3年生は現在悩みを持っているのであろうか。また，悩みの内容はどんなことであろうか。まず表2－1に，現在悩んでいるかどうかについてたずねた結果を示す。

表2－1から，現在悩んでいると回答した者の割合は，男子が62.9％，女子が68.9％で，ともにかなり高い比率を示すことがわかる。この結果は，高校生を対象として同様の質問を行なった結果（後藤・田浦・久世，1981）と類似している。すなわち，2/3近くの者が現在悩みを持っていて，しかも女子の方が悩みを持つ者の比率が高い。

つぎに，現在悩んでいると回答した者がどんなことに悩みを感じているかについて調べてみた。表2－2は，悩みの内容として挙げられたものを多い順に並べたものである。表2－2に示すように，「受験」が男女とも悩みとしては最高の選択率を示している。これは，公立高校の受験を目前としていた調査の実施時期を考えるならば，当然の結果であるといえよう。この「受験」に加えて，「生き方」「進路」など，今後の進路選択に関する悩みが上位を占めている。また，男子に比べて，女子は「身体・性格」「友人関係」が悩みとして比較的上位にあることも特徴的である。

つぎに，悩みを感じている者がその悩みをどれくらい重大であると認知しているのかについてみてみよう。現在悩んでいると回答した者837名に対し，その悩みが重要であるかどうかを，「重大な悩み」「やや重大な悩み」「どちらともいえない」「あまり重大な悩みではない」「全く重大な悩みではない」の5段階で評定させた。その順に5～1点を与えて得点の平均値と標準偏差を算出した結果が表2－3である。得点が高くなるほど悩みが重大であると認知されていることを示す。

得点が4.00に近いことから，男女とも現在感じている悩みが重大であると認知しているといえる。また，男女間では悩みの重大性の認知の相違は認められない。さら

表2－3　悩みの重大性の認知

	男子		女子	
悩みの重大性	4.02	(1.10)	3.93	(1.01)

(　) 内の数字は標準偏差を示す。

表2－4　悩みの内容別にみた悩みの重大性の認知

悩みの内容＼性別	男子	女子
進路選択に関する悩みを持つ者	4.09 (1.05)	4.13 (0.93)
進路選択以外の悩みを持つ者	3.94 (1.16)	3.70 (1.04)

(　) 内の数字は標準偏差を示す。

に，悩みの内容によって悩みの重大性の認知に相違がみられるかどうかを知るために，「受験」「進路」「生き方」など進路選択に関する悩みを持つ者と，「身体・性格」などそれ以外の悩みを持つ者の得点の平均値と標準偏差を男女別に求めてみた。その結果を表2－4に示す。

男子においては，悩みの内容の相違による悩みの重大性の認知得点の平均値に有意な差は認められない。一方，女子においては，両群間に1％水準で有意差がみられた（$t = 4.45$，$P < .01$）。すなわち，進路選択に関する悩みを持っている女子は，それ以外の悩みを持っている女子に比べて，悩みをより重大なものと感じているといえる。

（3） 中学校生活に対する満足感

つぎに，中学校生活に対する満足感についてみてみよう。表3は，男女ごとに，「授業・学習」「クラブ活動」など13の領域に関する満足感を5段階評定によって求め，平均値と標準偏差を算出した結果である。得点が高くなるほど満足感が高いことを示している。

まず全体的傾向としては，男女とも「友だち」「家庭生活全般」「先生」「学校・学級の雰囲気」「学校生活全般」などに対して満足感を感じていることがわかる。得点の平均値が3.00以下，すなわちやや不満足を感じている領域は「ホームルーム活動」だけであり，中学3年生は，学校生活，家庭生活，自己の生活に関して全般的に満足感を感じているといえよう。

性差に関しては，「授業・学習」「学校行事」「学校・学級の雰囲気」「友だち」「学校生活全般」の5領域で有意

表3 中学校生活の領域別満足感

領域＼性別	男子	女子	性差の検定結果
授業・学習	3.08 (0.97)	3.20 (0.82)	＊
クラブ活動	3.19 (1.23)	3.23 (1.09)	
部活動	3.31 (1.20)	3.24 (1.09)	
ホームルーム活動	2.83 (0.99)	2.88 (0.85)	
学校行事	3.18 (1.13)	3.33 (1.04)	＊＊
受験指導	3.29 (1.00)	3.39 (0.96)	
学校・学級の雰囲気	3.36 (1.17)	3.51 (1.10)	＊
友だち	4.14 (0.98)	4.29 (0.86)	＊＊
先生	3.55 (1.14)	3.51 (1.05)	
学校生活全般	3.35 (1.00)	3.51 (0.98)	＊＊
家庭生活全般	3.63 (0.96)	3.75 (1.03)	
社会生活全般	3.01 (0.89)	3.02 (0.80)	
自己の生活全般	3.29 (1.03)	3.21 (1.00)	

（ ）内の数字は標準偏差を示す。性差の検定結果欄の＊＊印は，男女間の平均値の差の有意性が$P < .01$であることを，同様に＊印は$P < .05$であることを示す。これらの記号の意味は表4，表7－1，表7－3，表8－1，表8－2においても同様である。

表4 友だちとの会話の内容と程度

話題＼性別	男子	女子	性差の検定結果
勉強や成績のこと	2.27 (0.62)	2.45 (0.56)	＊＊
学習のこと	2.07 (0.66)	2.20 (0.64)	＊＊
家でのできごと	1.66 (0.69)	2.24 (0.67)	＊＊
先生や友だちのこと	2.36 (0.64)	2.65 (0.55)	＊＊
異性のこと	1.98 (0.76)	2.28 (0.70)	＊＊
歌手やスポーツのこと	2.21 (0.71)	2.44 (0.66)	＊＊
入試のこと	2.32 (0.67)	2.51 (0.58)	＊＊
将来の職業について	1.62 (0.68)	1.74 (0.66)	＊＊
政治・経済や社会のできごと	1.36 (0.59)	1.17 (0.41)	＊＊

（ ）内の数字は標準偏差を示す。

な差がみられ，しかも，いずれも女子の方がより満足感が高い。

（4） 友だちとの会話の内容と程度

表1や表3に示したように，友だちは中学3年生にとって主な関心の対象であり，また友だちに対する満足感も高い。それでは，中学校生活の中で，中学3年生は友だちとどんな話題をどの程度話しているのであろうか。「勉強や成績のこと」「学習のこと」など，あらかじめ9種類の話題を設定し，それぞれの話題について「よく話す」「ときどき話す」「ほとんど話さない」の3段階で評定を求めた。そして，順に3～1点を与えて得点を算出し，各話題ごと，男女ごとに平均値と標準偏差を求めた。その結果を表4に示す。

まず全体的傾向としては，男女とも「先生や友だちのこと」「入試のこと」「勉強や成績のこと」「歌手やスポーツのこと」を友だちと話すことが多い。一方，「政治・経済や社会のできごと」「将来の職業について」は，男女ともに友だちと話すことが少ない話題である。また、男子においては，「家でのできごと」もあまり話されることがない話題である。

つぎに，性差に関しては，表4に示したように，すべての話題に関して有意な性差がみられ，「政治・経済や社会のできごと」を除く他の8種類の話題は，男子よりも女子においてよく話されている。

（5） 問題別にみた判断のよりどころ

中学生という時期は，親や周囲から精神的自立をはかることを求めると同時に求められる時期でもある。精神的自立の達成の程度を評価するための指標としては様々なものを考えることができる。判断を下すことが求められる諸問題に対して，どれくらい自分の考えに基づいて行

表5－1　問題別にみた判断のよりどころ　――進　　路――

判断のよりどころ＼性別	男子	女子	計
父	82 (12.7)	65 (10.6)	147 (11.7)
母	42 (6.5)	78 (12.7)	120 (9.5)
きょうだい	10 (1.6)	15 (2.4)	25 (2.0)
自分の考え通り	244 (37.9)	186 (30.3)	430 (34.2)
友だち	9 (1.4)	7 (1.1)	16 (1.3)
先生	244 (37.9)	247 (40.3)	491 (39.1)
先輩	9 (1.4)	10 (1.6)	19 (1.5)
新聞・雑誌	4 (0.6)	5 (0.8)	9 (0.7)
NA	11	4	15
計	655 (100.0)	617 (100.0)	1,272 (100.0)

$\chi^2 = 21.16$，df＝7，P＜.01

（　）内の数字はNAの分は除いて算出した百分率を示す。表5－7まで同様である。

表5－2　問題別にみた判断のよりどころ　――将来の職業――

判断のよりどころ＼性別	男子	女子	計
父	139 (21.5)	84 (13.7)	223 (17.7)
母	45 (7.0)	101 (16.5)	146 (11.6)
きょうだい	9 (1.4)	8 (1.3)	17 (1.4)
自分の考え通り	413 (63.8)	391 (63.9)	804 (63.9)
友だち	9 (1.4)	6 (1.0)	15 (1.2)
先生	19 (2.9)	15 (2.5)	34 (2.7)
先輩	6 (0.9)	4 (0.7)	10 (0.8)
新聞・雑誌	7 (1.1)	3 (0.5)	10 (0.8)
NA	8	5	13
計	655 (100.0)	617 (100.0)	1,272 (100.0)

$\chi^2 = 35.09$，df＝7，P＜.01

表5－3　問題別にみた判断のよりどころ　── 受験勉強の方法──

判断のよりどころ＼性別	男子	女子	計
父	11 (1.7)	8 (1.3)	19 (1.5)
母	4 (0.6)	6 (1.0)	10 (0.8)
きょうだい	43 (6.7)	72 (11.8)	115 (9.2)
自分の考え通り	291 (45.6)	198 (32.4)	489 (39.1)
友だち	93 (14.6)	122 (19.9)	215 (17.2)
先生	149 (23.4)	143 (23.4)	292 (23.4)
先輩	36 (5.6)	59 (9.6)	95 (7.6)
新聞・雑誌	11 (1.7)	4 (0.7)	15 (1.2)
NA	17	5	22
計	655 (100.0)	617 (100.0)	1,272 (100.0)

$\chi^2 = 38.85$, df＝7, P＜.01

表5－4　問題別にみた判断のよりどころ　──受　験　校──

判断のよりどころ＼性別	男子	女子	計
父	35 (5.5)	24 (4.0)	59 (4.8)
母	29 (4.6)	45 (7.4)	74 (6.0)
きょうだい	13 (2.1)	28 (4.6)	41 (3.3)
自分の考え通り	238 (37.6)	167 (27.5)	405 (32.7)
友だち	13 (2.1)	17 (2.8)	30 (2.4)
先生	291 (46.0)	310 (51.1)	601 (48.6)
先輩	10 (1.6)	14 (2.3)	24 (1.9)
新聞・雑誌	4 (0.6)	2 (0.3)	6 (4.9)
NA	22	10	32
計	655 (100.0)	617 (100.0)	1,272 (100.0)

$\chi^2 = 25.38$, df＝7, P＜.01

表5－5　問題別にみた判断のよりどころ　──クラブ・部活動──

判断のよりどころ＼性別	男子	女子	計
父	2 (0.3)	2 (0.3)	4 (0.3)
母	2 (0.3)	4 (0.7)	6 (0.5)
きょうだい	7 (1.1)	9 (1.5)	16 (1.3)
自分の考え通り	461 (71.3)	364 (59.4)	825 (65.4)
友だち	124 (19.2)	162 (26.4)	285 (22.7)
先生	9 (1.4)	6 (1.0)	15 (1.2)
先輩	36 (5.6)	65 (10.6)	101 (8.0)
新聞・雑誌	6 (0.9)	1 (0.2)	7 (0.6)
NA	8	4	12
計	655 (100.0)	617 (100.0)	1,272 (100.0)

$\chi^2 = 28.96$, df＝7, P＜.01

表5－6　問題別にみた判断のよりどころ　――休日の過し方――

判断のよりどころ＼性別	男子	女子	計
父	4 (0.6)	3 (0.5)	7 (0.6)
母	6 (0.9)	15 (2.4)	21 (1.7)
きょうだい	7 (1.1)	13 (2.1)	20 (1.6)
自分の考え通り	519 (79.6)	471 (76.4)	990 (78.1)
友だち	106 (16.3)	97 (15.8)	203 (16.0)
先生	3 (0.5)	8 (1.3)	11 (0.9)
先輩	1 (0.2)	2 (0.3)	3 (0.2)
新聞・雑誌	6 (0.9)	6 (1.0)	12 (0.9)
N A	3	2	5
計	655 (100.0)	617 (100.0)	1,272 (100.0)

$\chi^2 = 10.06$, df＝7, n.s.

表5－7　問題別にみた判断のよりどころ　――異性との交際――

判断のよりどころ＼性別	男子	女子	計
父	5 (0.8)	8 (1.3)	13 (0.9)
母	14 (2.2)	52 (8.5)	57 (4.5)
きょうだい	7 (1.1)	16 (2.6)	23 (1.8)
自分の考え通り	445 (69.4)	299 (48.9)	744 (59.4)
友だち	148 (23.1)	218 (35.6)	366 (29.2)
先生	2 (0.3)	3 (0.5)	5 (0.4)
先輩	8 (1.2)	9 (1.5)	17 (1.4)
新聞・雑誌	12 (1.9)	7 (1.1)	19 (1.5)
N A	14	5	19
計	655 (100.0)	617 (100.0)	1,272 (100.0)

$\chi^2 = 83.23$, df＝7, P＜.01

動の仕方を決定できるかということを知るのも，一つの視点として有効であると思われる。そこで，本研究では，中学3年生が直面するいろいろな問題に対して判断を下そうとするとき，自分の考え通りにすることも含め，どんな情報源をよりどころとしているのかについてたずねてみた。その結果を表5－1から表5－7に示す。

「進路」については，「先生」に判断を委ねるのがよいとする者が最も多く，「自分の考え通り」とする者が続いている。それ以外では，「父」が10％を越える程度である。男子では，「先生」の意見に従う者と「自分の考え通りにする」者とが同数である一方で，女子では，「先生」の意見に従うのがよいとする者が，「自分の考え通りにする」者よりも多く，比率にして10％の開きがあることは興味深い。

つぎに，「将来の職業」に関しては，男女とも約64％の者が「自分の考え通りにすること」がよいと考えている。また，男子では「父」を選んだ者が「母」を選んだ者の3倍近くに達しているが，女子では「母」を選んだ者が「父」を選んだ者よりも多いことが特徴的である。

「受験勉強の方法」でも，「自分の考え通りにすること」を選択した者が第1位であるが，男女とも半数には達していない。その代わりに，「先生」（23.4％）や「友だち」（17.2％）の意見に従うのがよいとする者の比率が高くなっている。「父」や「母」は，ほとんど「受験勉強の方法」を決定する際のよりどころとはなっていない。女子は男子に比べて，「自分の考え通りにすること」がよいとする者の比率が少ない一方，「友だち」や「きょうだい」によりどころを求める者の比率が大きい。

「受験校」では，上述した「進路」と同様に，「先生」の選択率が第1位であり，「自分の考え通りにすること」がそれに続いている。他の情報源を選択した者は，合計

しても20％に達していない。

「クラブ・部活動」の決定に際しては，「自分の考え通りにすること」がよいとする者は約65％である。女子は男子よりも「自分の考え通りにすること」の選択率が低いが，「友だち」「先輩」の選択率は高い。

「休日の過し方」も同様に，「自分の考え通りにすること」を選んだ者が圧倒的に多く，第２位の「友だち」の選択率は16％でしかない。

「異性との交際」についても，「自分の考え通りにすること」の選択率が最も高いが，「友だち」の選択率も30％に達している。とくに，女子においては，その傾向が顕著であり，「自分の考え通りにすること」がよいとする者は48.9％である一方，「友だち」をよりどころとする者が35.6％いる。男子では，「自分の考え通りにすること」を選択した者は69.4％であり，「友だち」を選択した者は23.1％しかいなかったことと比較して特徴的である。

以上から，「自分の考え通りにすること」がよいとする者は，他の情報源をよりどころとする者に比べてとくに多いのは，「将来の職業」「クラブ・部活動」「休日の過し方」であり，これらの決定を自分自身の判断で下そうとする傾向が強いことがわかる。

一方，「進路」「受験校」の決定に関しては，「先生」の意見をよりどころとする者が，「自分の考え通りにすること」を選んだ者よりもわずかではあるが多い。他の情報源を選択する者は少なく，この２つの問題を決定するときは，自分の考え通りにする者と，先生の意見をよりどころとする者とに大別されることを示している。

「受験勉強の方法」および「異性との交際」ではともに「自分の考え通りにすること」の選択率は第１位であるが，前者は「先生」と「友だち」，後者は，「友だち」を選ぶ者の比率も高い。

また，「休日の過し方」を除く他のすべての問題に対して「自分の考え通りにすること」を選択した者の比率は，女子よりも男子の方が高く，全般的に男子の方が自己決定する程度が高いといえる。

2　悩みと進路選択に関する意識および生活意識との関係

表３－１，表３－２に示したように，男女とも６割以上の者が現在悩みを感じており，悩みの内容としては，「受験」「進路」など自己の進路選択に関するものが上位であった。これは，中学３年生は，中学卒業後の進路を具体的に決定することが求められる時期であり，自分の人生に対する最初の責任が付与される時期であることから生じたと思われる。

ところで，進路選択に関する悩みを持つ者とそうでない者とでは，進路選択の際重視する要因や主体性の程度が異なるであろうか。また，日常の生活に対する意識にも相違がみられるのであろうか。ここでは，悩みの有無や内容によって，進路選択に関する意識や生活意識にどんな違いがみられるのかを検討することにした。その際，悩みの内容として「受験」「進路」「生き方」を挙げた者を，「進路選択に関する悩みを持つ群」，悩みの内容がそれら以外であった者を，「進路選択以外の悩みを持つ群」，現在悩んでいないと回答した者を「悩みなし群」とした。これら３群の男女別人数は表６に示す通りである。

（１）　悩みと進路選択に関する意識

表７－１は，各群ごと，男女ごとに，「学業成績」など11個の要因を進路選択の際どの程度考慮したかを５段階評定によって求め，各得点の平均値と標準偏差を算出し，さらに群と性別の２要因の分散分析を行った結果を示す。なお，得点が高い要因ほど考慮されていることを示している。

表７－１の分散分析の結果が示すように，「自分のなりたい職業」以外の項目で有意な性別の主効果が認められ

表６　悩みの有無別，内容別にみた被調査者数

群＼性別	男子	女子	計
進路選択に関する悩みを持つ群	233 (35.6)	231 (37.4)	464 (36.6)
進路選択以外の悩みを持つ群	179 (27.3)	194 (31.4)	373 (29.2)
悩みなし群	243 (37.1)	192 (31.2)	435 (34.2)
計	655 (100.0)	617 (100.0)	1,272 (100.0)

（　）内の数字は百分率を示す。

表7－1　進路選択に際し考慮した要因

要因 ＼ 性別 ＼ 群		進路選択に関する悩みを持つ群	進路選択以外の悩みを持つ群	悩みなし群	分散分析の結果 群	性別	交互作用
学業成績	男	4.44 (0.84)	4.14 (1.07)	4.33 (0.95)	**	**	
	女	4.64 (0.74)	4.38 (0.87)	4.55 (0.71)			
模試の成績	男	4.04 (1.10)	3.73 (1.19)	4.00 (1.11)	**	**	
	女	4.37 (0.82)	4.03 (1.02)	4.19 (0.92)			
自分の興味・関心	男	3.57 (1.27)	3.66 (1.21)	3.52 (1.32)		*	
	女	3.71 (1.15)	3.69 (1.18)	3.75 (1.17)			
親の職業	男	1.83 (1.27)	2.02 (1.08)	1.78 (1.22)		*	
	女	1.68 (1.13)	1.63 (1.05)	1.76 (1.04)			
家庭の経済力	男	2.66 (1.41)	2.80 (1.42)	2.51 (1.37)	*	**	
	女	3.01 (1.41)	3.02 (1.36)	2.77 (1.29)			
進学先の評判	男	3.32 (1.21)	3.24 (1.31)	3.20 (1.24)		*	
	女	3.62 (1.10)	3.52 (1.13)	3.46 (1.09)			
自分のなりたい職業	男	3.41 (1.39)	3.19 (1.42)	3.17 (1.36)	*		
	女	3.49 (1.29)	3.33 (1.37)	3.34 (1.32)			
通学距離	男	3.74 (1.27)	3.63 (1.33)	3.66 (1.29)		**	
	女	4.06 (1.10)	4.04 (1.10)	3.92 (1.10)			
家族の意見	男	3.94 (1.12)	3.87 (1.11)	3.98 (1.03)		**	
	女	4.40 (0.79)	4.28 (0.89)	4.21 (0.98)			
先生の意見	男	4.14 (1.01)	4.06 (1.11)	4.20 (0.93)		**	
	女	4.46 (0.80)	4.30 (0.87)	4.33 (0.87)			
友だちの意見	男	2.76 (1.01)	2.82 (1.29)	2.53 (1.25)	*	**	
	女	3.18 (1.21)	3.03 (1.32)	3.02 (1.21)			

(　) 内の数字は標準偏差を示す。

表7－2　進路選択における主体性の程度

性別 ＼ 群	進路選択に関する悩みを持つ群	進路選択以外の悩みを持つ群	悩みなし群
男子	3.75 (1.17)	3.71 (1.17)	3.84 (1.11)
女子	3.77 (1.06)	3.66 (1.12)	3.87 (0.98)

(　) 内の数字は標準偏差を示す。

た。そのうち，「親の職業」以外のすべては，女子の方が男子よりもより考慮に入れる要因である。

また，「学業成績」「模試の成績」「家庭の経済力」「自分のなりたい職業」「友だちの意見」の5要因において，有意な群の主効果がみられた。3群の各得点の平均値を比較したところ，「学業成績」「模試の成績」の2要因は，「進路選択以外の悩みを持つ群」が他の群ほど考慮に入れていない要因であった。「自分のなりたい職業」は「進路選択に関する悩みを持つ群」が他の2群に比べて考慮した要因であり，「家庭の経済力」「友だちの意見」は「悩みなし群」が他の2群ほど考慮に入れない要因であった。

以上から，悩みの有無やその内容にかかわらず，女子は男子よりも，進路選択に際し考慮する程度の大きい要因が多いこと，また，「進路選択以外の悩みを持つ群」は，他の者ほど自分の学力を考慮に入れていないことがわかる。

つぎに，進路選択における主体性の程度についてみてみよう。表7－2は，進路選択に際し，自分の意見が強く入っているか，それともまわりの意見が強かったかということを，「全く自分の意見」から「全くまわりの意見」までの5段階で評定させた結果を，悩みの有無や内

容ごと，男女ごとに示したものである。得点が高いほど，自分の意見によって進路選択を行う傾向が強いことを示す。

表７－２の結果をもとにして，群と性別の２要因による分散分析を行ったところ，有意に近い群の主効果がみられた（F＝2.644，P＜0.07）が，性別の主効果および群と性別の交互作用は認められなかった。全体的にみて進路選択における主体性の程度は高いといえるが，進路選択以外の悩みを持つ者は，他の２群に比べて，やや主体性が低い傾向がみられる。

つぎに，他者のアドバイスをどのように受けとめているのかについてみてみよう。表７－２に示したように，中学３年生が進路を自己決定する程度はかなり高い。しかし，だからといって，両親や先生の意見を全く無視しているわけではなかろう。そうしたまわりの人々のアドバイスは，中学３年生自身がそれを受け入れるかどうかは別にしても，進路選択に対して影響を与えていると考えられる。また，悩みが進路選択に関することである者とそうでない者とでは，まわりの人々のアドバイスの効果の認知が異なるかも知れない。そこで，「父」「母」「先生」「友だち」のアドバイスが，自己の将来のことを考えるにあたってどれくらい役だったと感じているかについて調べてみた。表７－３は，各対象人物のアドバイスの効果を「大いに役だった」から「全く役にたたなかった」までの５段階で評定させたときの得点の平均値，および，群と性別の２要因による分散分析を行った結果を示す。なお，得点が高いほど，アドバイスが役にたったと認知していることを示す。

表７－３の分散分析の結果が示すように，「先生」以外の人物について有意な性別の主効果が認められた。得点の平均値を比較してみると，女子は男子よりも高い。すなわち，女子は男子よりも「父」「母」「友だち」のアドバイスが役にたったと認知している。

一方，群の主効果は全くみられず，悩みの有無や内容はアドバイスの効果の認知とは関係がないことがわかる。

以上，現在の悩みの有無や内容によって，進路選択の際考慮した要因，進路選択の主体性の程度，他者のアドバイスの効果の認知にどんな相違がみられるのかについて検討して来た。その結果，進路選択以外の悩みを持つ者は，自分の学力を他の者ほどには重視せず，進路選択における主体性の程度もそれほど高くないこと，女子は男子よりも，進路選択に際し多くの要因を考慮に入れる傾向があり，他者のアドバイスが役にたったと受けとめていることなどが見出された。

（２）　悩みと生活意識

つぎに，悩みの有無や内容が，中学校生活に対する満足度や友だちとの会話の内容と程度など，日常の生活に関する意識にどんな影響を与えているかについてみてみよう。

表８－１は，表３にも示したような各項目に対する満足度を，悩みの有無別，内容別に，男女別に求めた結果である。また，群と性別の２要因による分散分析を行った結果も示す。

「授業・学習」「受験指導」「学校・学級の雰囲気」「友だち」「学校生活全般」および「家庭生活全般」の６領域に関しては，群と性別双方に有意な主効果が認められた。女子の方が男子よりも得点が高く，これらの領域に対する満足感が高いことは，表３の結果と同様である。男女別に３群間の平均値を比較したところ，男子においては，「学校・学級の雰囲気」「友だち」および「家庭生活全般」の３領域に関して，「進路選択以外の悩みを持つ群」と他の２群との間に有意差がみられた。一方，女

表７－３　アドバイスの効果の認知

対象人物＼群	性別	進路選択に関する悩みを持つ群	進路選択以外の悩みを持つ群	悩みなし群	分散分析の結果 群	性別	交互作用
父	男	3.37（1.24）	3.27（1.24）	3.39（1.19）		＊	
	女	3.52（1.11）	3.39（1.19）	3.54（1.14）			
母	男	3.57（1.08）	3.49（1.02）	3.55（1.09）		＊＊	
	女	3.97（0.89）	3.78（1.03）	4.01（0.92）			
先生	男	4.03（1.02）	4.04（0.97）	4.12（0.91）			
	女	4.12（0.97）	4.09（1.04）	4.17（0.81）			
友だち	男	3.00（1.14）	2.95（1.16）	2.94（1.08）		＊＊	
	女	3.46（0.98）	3.22（1.13）	3.29（0.99）			

（　）内の数字は標準偏差を示す。

表8－1　悩みの有無別，内容別にみた中学校生活の領域別満足度

領域	性別	進路選択に関する悩みを持つ群	進路選択以外の悩みをもつ群	悩みなし群	分散分析の結果 群	性別	交互作用
授業・学習	男	3.08 (0.97)	2.94 (1.01)	3.18 (0.92)	*	**	
	女	3.18 (0.78)	3.15 (0.91)	3.28 (0.78)			
クラブ活動	男	3.13 (1.23)	3.10 (1.22)	3.30 (1.24)	*		
	女	3.10 (1.11)	3.26 (1.16)	3.36 (0.99)			
部活動	男	3.37 (1.17)	3.15 (1.22)	3.37 (1.20)			
	女	3.18 (1.07)	3.20 (1.15)	3.36 (1.02)			
ホームルーム活動	男	2.87 (1.03)	2.73 (1.01)	2.85 (0.93)			
	女	2.90 (0.85)	2.77 (0.87)	2.95 (0.83)			
学校行事	男	3.22 (1.10)	3.18 (1.20)	3.12 (1.11)		**	
	女	3.29 (1.05)	3.37 (1.05)	3.33 (1.02)			
受験指導	男	3.32 (0.99)	3.12 (1.09)	3.37 (0.91)	**	*	
	女	3.48 (0.96)	3.25 (1.03)	3.43 (0.90)			
学校・学級の雰囲気	男	3.43 (1.13)	3.10 (1.26)	3.47 (1.10)	**	**	
	女	3.49 (1.05)	3.35 (1.19)	3.69 (1.05)			
友だち	男	4.21 (0.92)	3.90 (1.14)	4.25 (0.87)	**	**	
	女	4.22 (0.89)	4.22 (0.90)	4.44 (0.77)			
先生	男	3.65 (1.08)	3.40 (1.22)	3.56 (1.12)			
	女	3.45 (1.08)	3.47 (1.10)	3.63 (0.96)			
学校生活全般	男	3.32 (1.02)	3.29 (1.02)	3.42 (0.97)	*	**	
	女	3.44 (0.96)	3.44 (1.04)	3.65 (0.92)			
家庭生活全般	男	3.68 (0.93)	3.45 (0.95)	3.70 (0.98)	*	**	
	女	3.82 (0.87)	3.51 (1.16)	3.89 (1.04)			
社会生活全般	男	2.96 (0.95)	2.96 (0.88)	3.10 (0.84)	**		
	女	2.94 (0.78)	2.98 (0.83)	3.15 (0.79)			
自己の生活全般	男	3.30 (1.06)	3.04 (1.02)	3.45 (0.97)	**		
	女	3.15 (0.99)	3.04 (1.03)	3.45 (0.93)			

(　) 内の数字は標準偏差を示す。

子においては，「友だち」と「学校生活全般」で「悩みなし群」と他の2群との間に有意差がみられた。「家庭生活全般」では男子と同様に，「進路選択以外の悩みを持つ群」と他の2群との間に有意差が認められ，「受験指導」「学校・学級の雰囲気」に関しても，ほぼ同様の傾向を示した。以上から，進路選択以外の悩みを持つ者は，進路選択に関する悩みを持つ者や，悩みを持たない者に比べて，「学校・学級の雰囲気」「受験指導」「家庭生活全般」に対する満足感が低いことがわかる。また，悩みを持たない女子は，他の2群の女子に比べて，「友だち」と「学校生活全般」に対して，より満足しているといえる。

また，「クラブ活動」「社会生活全般」「自己の生活全般」の3領域に関しては，有意な群の主効果がみられた。3群間の平均値の比較の結果，男子では「自己の生活全般」で「進路選択以外の悩みを持つ群」の平均値が他の2群より低く，女子では「社会生活全般」「自己の生活全般」で「悩みなし群」の平均値が他の2群より高かった。

以上の結果から，男子においては，「授業・学習」「受験指導」「学校・学級の雰囲気」「友だち」「家庭生活全般」に対する満足感は，進路選択以外の悩みを持つ者が他の2群に比べて低いことがわかる。また，「クラブ活動」「部活動」「ホームルーム活動」「学校行事」「学校生活全般」「社会生活全般」に対する満足感は，悩みの有無や内容による相違は認められない。一方女子においては，「授業・学習」「部活動」「学校行事」「先生」に対する満足感は，悩みの有無や内容による相違はなく，「友だち」「社会生活全般」「自己の生活全般」「学校生活全般」に対する満足感は，悩みを持たない者が他の2群よ

表8－2　悩みの有無別，内容別にみた友だちとの会話の内容と程度

話題＼群・性別	性別	進路選択に関する悩みを持つ群	進路選択以外の悩みを持つ群	悩みなし群	分散分析の結果 群	性別	交互作用
勉強や成績のこと	男	2.36 (0.59)	2.21 (0.68)	2.22 (0.61)	**	**	
	女	2.54 (0.52)	2.43 (0.57)	2.35 (0.58)			
学習のこと	男	2.15 (0.62)	2.00 (0.71)	2.05 (0.66)	**	**	
	女	2.29 (0.64)	2.18 (0.62)	2.15 (0.64)			
家でのできごと	男	1.66 (0.71)	1.66 (0.69)	1.66 (0.68)		**	
	女	2.24 (0.67)	2.21 (0.70)	2.29 (0.64)			
先生や友だちのこと	男	2.37 (0.65)	2.37 (0.65)	2.34 (0.63)		**	
	女	2.71 (0.50)	2.59 (0.57)	2.63 (0.51)			
異性のこと	男	2.04 (0.75)	2.04 (0.79)	1.89 (0.72)	**	**	
	女	2.27 (0.70)	2.36 (0.69)	2.19 (0.71)			
歌手やスポーツのこと	男	2.24 (0.69)	2.22 (0.71)	2.20 (0.73)		**	
	女	2.44 (0.66)	2.46 (0.61)	2.42 (0.70)			
入試のこと	男	2.42 (0.66)	2.25 (0.66)	2.30 (0.68)	**	**	
	女	2.64 (0.55)	2.46 (0.56)	2.43 (0.51)			
将来の職業について	男	1.71 (0.73)	1.57 (0.63)	1.59 (0.67)		**	
	女	1.74 (0.66)	1.71 (0.71)	1.71 (0.63)			
政治・経済や社会のできごと	男	1.33 (0.57)	1.41 (0.64)	1.35 (0.67)		**	
	女	1.17 (0.41)	1.17 (0.43)	1.16 (0.40)			

(　) 内の数字は標準偏差を示す。

り高いことが特徴的である。

つぎに，友だちとの会話についてみてみよう。表8－2は，表4に示したような各話題に対して友だちとどの程度話しているかを悩みの有無別，内容別，男女別に平均値と標準偏差を算出した結果を示す。

表8－2の結果をもとにして，群と性別の2要因による分散分析を行なったところ，すべての項目において有意な性別の主効果が認められた。この結果は表4で示した結果と同様である。すなわち，悩みの有無や内容には関わりなく，「政治・経済や社会のできごと」を除く他の8種類の話題に対して，女子は男子よりも友だちとよく話している。

一方，「勉強や成績のこと」「学習のこと」「異性のこと」「入試のこと」の4項目に関しては，有意な群の主効果もみられた。このうち，「勉強や成績のこと」「学習のこと」「入試のこと」の3項目に関しては，「進路選択に関する悩みを持つ群」は，他の2群に比べて平均値が高い傾向がみられる。すなわち，進路選択に関する悩みを持つ者は，進路選択以外の悩みを持つ者や悩みを持たない者に比べて，これら勉学面に関する話題を友だちとよく話しているといえる。「異性のこと」については，悩みを持たない者は他の者に比べて，友だちとあまり話していない。

以上の結果から，ここで挙げた9種類の話題を友だちと話す程度を悩みの有無や内容の相違からみるとき，「勉強や成績のこと」「学習のこと」「入試のこと」など勉学的側面に関する話題は，進路選択に関する悩みを持つ者は他の者よりも友だちとよく話していること，「家でのできごと」「先生や友だちのこと」「歌手やスポーツのこと」「将来の職業について」および「政治・経済や社会のできごと」などを友だちと話す程度は，悩みの有無や内容にはあまり関係を持っていないことなどがわかる。

Ⅵ　考　　察

1　生活意識の全体的傾向について

本研究では，中学3年生が日常の生活の中で，どんなことを考えたり，感じているのかについて知るために，①関心の対象，②悩みの有無と内容，および悩みの重大性の認知，③中学校生活に対する満足感，④友だちとの会話の内容と程度，⑤決定することが求められる問題別にみた判断のよりどころなどについての設問を試みている。

以下に，その主な結果について述べてみよう。

①中学3年生の間で関心が高いのは，受験のこと，趣

味に関すること，友だちなどであり，学校生活の制度的な側面（学校行事，生徒会，テストなど）や家族に対する関心は低い。

②現在悩みを感じている者は65.8％に達していて，女子の方が男子よりも，悩んでいる者の比率が高い傾向がみられる。

③悩みの内容としては，「受験」が男女ともに最も多く，以下，「生き方」「進路」など，今後の進路選択に関連する悩みが続いている。そして，悩みを持っている者は，その悩みをかなり重大であると感じている。

④男女とも中学校生活に対する満足感は比較的高く，とくに，「友だち」「先生」「学校・学級の雰囲気」および「家庭生活全般」に対して満足している。また，女子の方が男子よりも，全般的に満足感が高い傾向がみられる。

⑤男女とも「先生や友だちのこと」「入試のこと」「勉強や成績のこと」および「歌手やスポーツのこと」を友だちとよく話している。一方，「政治・経済や社会のできごと」ならびに「将来の職業について」は，男女ともあまり友だちと話していない。また，「政治・経済や社会のできごと」以外の話題は，女子の方が男子よりも，友だちと話すことが多い話題である。

⑥「将来の職業」「クラブ・部活動」「休日の過し方」「異性との交際」を自分の考え通りに判断したいとする者が，男女ともかなり多い。一方，「進路」や「受験校」については，「先生」を挙げる者が「自分の考え通りにすること」と答える者よりも多い。

以上の結果から，公立高校の入試直前という時期における中学3年生の生活意識の特徴として，まず第1に挙げられるのは，関心の対象や友だちとの会話の内容にみられたように，生活意識の私的領域への傾斜ということであろう。すなわち，中学3年生は高校受験とともに，自分の趣味に関することに関心が高く，友だちとの会話でも，勉学や入試のこと，先生や友だちのこと，歌手やスポーツのことなどをよく話している。しかし，その反面では，学校生活の制度的な側面（学校行事，生徒会など）に対する関心は低く，また，友だちとは，将来の職業のことや政治・経済や社会のことについてはあまり話していない。もちろん，公立高校の入試を目前に控えた調査時期が，こうした傾向をより強める一因となった可能性も否定できない。したがって，中学3年生の別の時期や，中学1，2年生との比較が必要であろうが，中学3年生という時期における関心の対象や友だちとの話題のなりやすさからみて，自分の身のまわりのことを中心とした生活意識をその特徴として指摘できよう。

第2には，問題別にみた判断のよりどころに示されたように，かなりの中学生はものごとを主体的に決定しようとする傾向は強いといえるが，判断が必要となる問題の性質や種類によって，その程度が異なることが挙げられる。例えば，進路や受験校の決定に関しては，自分の考え通りにしたいという者よりも，先生の意見に従う方がよいと考える者の方が多い。これには，保持する知識や情報の多さの故に，先生に対する信頼感を感じているためであろう。

第3に，性差がみられることを指摘しておかなければならない。とくに，友だちとの会話の内容や程度に関しては，項目として使用した9種類の話題すべてにおいて有意な性差がみられた。また，関心の対象として「友だち」を挙げた者や，悩みの内容として「友人関係」を挙げた者の比率が男子より女子の方が高かった。これらのことから，中学3年生の男子と女子とでは，友人関係のあり方が異なることが示唆される。すなわち，女子は男子に比べて，友だちとの間により情緒的な関係を持ちたいと望んでいるようである。

2　悩みと進路選択および生活意識との関係について

進路選択の際に重視した要因や，進路選択における主体性の程度と，悩みの有無や内容との関係では，悩みのない者と進路選択に関する悩みを持つ者とがほぼ同様の傾向を示し，むしろ，進路選択以外の悩みを持つ者にやや異質な傾向がみられたことが特徴である。すなわち，進路選択に関する悩みを持つ者，現在悩みを持たない者はともに，進路選択に際し自己の学力，先生の意見，家族の意見などを重視し，親の職業や家族の経済力はあまり重視していない。進路選択における主体性の程度についても，両者の間には差がなく，ともにかなり高得点である。これらのことは，悩みが進路選択に関する者であったり，また，悩みを感じていない者であったりしても，進路選択に関する意識に目立った相違がみられないことを示している。その点でむしろ注目されるのは，進路選択以外の悩みを持つ者の回答の傾向である。

進路選択以外の悩みを持つ者として分類されたのは，本研究では，悩みの内容として，「身体・性格」「友人関係」「成績」「異性との交際」「勉強の仕方」「家庭」などを挙げた者たちであった。これらの悩みは，大別して，自分自身に関係したことと，対人関係の中で生ずることの2種類がある。これら対自的，対人的な悩みを持つ者にとっても「受験」や「進路」に対する悩みは感じられていないのではなく，相対的な重点の置き方が異なるだけに過ぎないであろう。現在の悩みが進路選択に関係し

た内容であるか否かが，進路選択に際し重視した要因や主体性の程度の相違を生んだのは，この悩みに対する重みづけの違いのためであると思われる。

進路選択の際に重視した要因や主体性の程度にみられた進路選択以外の悩みを持つ者のやや異質な傾向は，学校生活等に対する満足感においても，比較的明瞭に認められた。とくに男子においては顕著であり，進路選択以外の悩みを持つ男子は，勉学面や友だちに対する満足感が他の２群の男子よりも低かった。

以上の結果に基づいて，悩みの有無や内容によって中学３年生を分類したときの各群の特徴を述べるとすれば，次のようになろう。進路選択に関する悩みを持つ者と，悩みを持たない者とは，進路選択に関する意識や学校生活に対する満足感においてほぼ同様の傾向を示している。すなわち，両群とも，進路選択の際に自分の学力や先生の意見をより重視し，進路選択における主体性の程度もかなり高い。また，友だちや学校生活全般に対する満足度が高く，進路のことや入試のことを友だちとよく話している。このように，彼らは学校生活をより適応的に過ごしているといえよう。

それに対して，進路選択以外の悩みを持つ者は，学校生活のうちの勉学的側面にやや不満足を感じていることに示されたように，学校生活に対して問題を抱えている者が含まれているように思われる。進路選択以外の悩みを持つ者については，今後さらに深く検討して行くことが必要であろう。

文　　献

後藤宗理・田浦武雄・久世敏雄，1981　高校生の生活意識に関する一研究　名古屋大学教育学部紀要―教育心理学科―，**28**，253 ― 279．

久世敏雄・後藤宗理　1982　中学生の進路選択に関する一研究　小川利夫・江藤恭二（編）「現代学制改革の展望」　福村出版　162 ― 182．

久世敏雄・原田唯司・後藤宗理・宮沢秀次・二宮克美　1981　中学生の進路選択と学校生活に対する意識に関する研究　名古屋大学教育学部紀要―教育心理学科―，**28**，235 ― 252．

日本教育学会入試制度研究委員会　1978　入学試験制度の教育学的研究　第４集　日本教育学会

竹内登規夫　1979　中学生の進路イメージに関する一研究（その１）　愛知教育大学研究報告（教育科学編），**28**，123 ― 136．

（1982年７月31日　受稿）

資　　料

中学生の進路選択と学校生活に関する調査

1979・2 ～ 3

名古屋大学教育心理学教室内
発達心理学研究室

この調査は，現在の中学生が中学生活をどのように感じ，過しているかを調べようとするものです。結果は，統計的に処理しますので，あなたの回答が他人に知られることは絶対にありません。あなたが感じたりすることをありのままに書いて下さい。

記入上の注意

1. 思ったままを最後まで書いて下さい。
2. 回答は該当する番号（数字）を○でかこみ（　）内には具体的に書いて下さい。
3. 各問の最後の［　　］内には，何も記入しないで下さい。

まず，あなた自身についてうかがいます。

(1) あなたの区は（　　）区
(2) あなたの学校名は（　　）中学
(3) あなたの性別は　1. 男　　2. 女

						(1)		(3)	

〔I〕中学卒業後の進路は次のどれですか。

1. 次のいずれかの項目に○印をつけて下さい。

1. 進学　　2. 就職　　3. 家業をつぐ　　4. 家事手伝い
5. その他（具体的に　　）

1. ［　］

2. 1.進学と答えた方にうかがいます。

(1) 受験する（した）私立高校はどこですか。　（　　高校）
(2) 受験しようとする公立高校はどこですか。　（　　高校）
(3) その公立高校はあなたの希望どおりですか。

全く希望どおり	やや希望どおり	どちらともいえない	あまり希望どおりではない	全く希望どおりではない
1	2	3	4	5

2. (1) ［　］
2. (2) ［　］
2. (3) ［　］

3. 2.就職と答えた方にうかがいます。

(1) 就職先はどこですか。 （具体的に　　）

(2) その就職先は，あなたの希望どおりですか。

全く希望どおり	やや希望どおり	どちらともいえない	あまり希望どおりではない	全く希望どおりではない
1	2	3	4	5

3.(1) ☐

3.(2) ☐

4. あなたが進学先，就職先をきめたとき，次の事柄をどの程度考えに入れていましたか。
各項目ごとにあてはまるところに○印をつけて下さい。

	よく考えにいれた	やや考えにいれた	どちらともいえない	あまり考えにいれなかった	全く考えにいれなかった
(1) 学業成績	1	2	3	4	5
(2) 模試の成績	1	2	3	4	5
(3) 自分の興味・関心	1	2	3	4	5
(4) 親の職業	1	2	3	4	5
(5) 家庭の経済力	1	2	3	4	5
(6) 進学先・就職先の評判	1	2	3	4	5
(7) 自分のなりたい職業	1	2	3	4	5
(8) 通学（勤）距離	1	2	3	4	5
(9) 家族の意見	1	2	3	4	5
(10) 先生の意見	1	2	3	4	5
(11) 友だちの意見	1	2	3	4	5

4.
(1) ☐
(2) ☐
(3) ☐
(4) ☐
(5) ☐
(6) ☐
(7) ☐
(8) ☐
(9) ☐
(10) ☐
(11) ☐

5. あなたは進路選択に自分の意見が強くはいっていると思いますか。それともまわりの意見が強かったと思いますか。

全く自分の意見	やや自分の意見	どちらともいえない	ややまわりの意見	全くまわりの意見
1	2	3	4	5

5. ☐

6. 以下の人たちのアドバイスは，あなたが将来のこと（進学・就職など）を考えるにあたってどのくらい役にたちましたか。

	大いに役だった	やや役だった	どちらともいえない	あまり役だたなかった	全く役にたたなかった
(1) 父	1	2	3	4	5
(2) 母	1	2	3	4	5
(3) 先生	1	2	3	4	5
(4) 友だち	1	2	3	4	5

6.
(1) ……
(2) ……
(3) ……
(4) ……

〔Ⅱ〕あなたは中学生活などについて，どう感じていますか。次の各項目ごとにあてはまるところに○印をつけて下さい。

	おおいに満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	全く不満
(1) 授業・学習	1	2	3	4	5
(2) クラブ活動	1	2	3	4	5
(3) 部　活　動	1	2	3	4	5
(4) ホームルーム活動	1	2	3	4	5
(5) 学校行事	1	2	3	4	5
(6) 受験指導	1	2	3	4	5
(7) 学校・学級の雰囲気	1	2	3	4	5
(8) 友　だ　ち	1	2	3	4	5
(9) 先　生	1	2	3	4	5
(10) 学校生活全般	1	2	3	4	5
(11) 家庭生活全般	1	2	3	4	5
(12) 社会生活全般	1	2	3	4	5
(13) 自己の生活全般	1	2	3	4	5

〔Ⅱ〕
(1) ……
(2) ……
(3) ……
(4) ……
(5) ……
(6) ……
(7) ……
(8) ……
(9) ……
(10) ……
(11) ……
(12) ……
(13) ……

〔Ⅲ〕あなたは次の話題について友だちとどの程度話していますか。各項目についてあてはまるところに○印をつけて下さい。

	よく話す	ときどき話す	ほとんど話さない
(1) 勉強や成績のこと	1	2	3
(2) 学習のこと	1	2	3
(3) 家でのできごと	1	2	3
(4) 先生や友だちのこと	1	2	3
(5) 異性のこと	1	2	3
(6) 歌手やスポーツのこと	1	2	3
(7) 入試のこと	1	2	3
(8) 将来の職業について	1	2	3
(9) 政治・経済や社会のできごと	1	2	3

〔Ⅲ〕

(1)	
(2)	
(3)	
(4)	
(5)	
(6)	
(7)	
(8)	
(9)	

〔Ⅳ〕あなたは現在どんなことに関心がありますか。次のうちからもっとも関心のあるもの三つを選んで○印をつけて下さい。

1.友だち	2.異　性	3.勉　強	4.旅　行	5.学校行事
6.音　楽	7.政治・社会	8.スポーツ	9.性	10.アルバイト
11.映　画	12.テスト	13.読　書	14.将来の生活	15.学校生活
16.部活動	17.生徒会	18.先　生	19.テレビ	20.ラジオ
21.ファッション	22.受　験	23.就　職	24.家　族	

〔Ⅳ〕

(1)	(2)	(3)

〔V〕以下の各事柄について決定するとき，次にかかげるどの人の意見ないし情報にしたがうのがもっともよいことだと思いますか。同一の事柄について一つだけ選んで○印をつけて下さい。事柄が違えば同じ人を何度選んでもかまいません。

	父	母	きょうだい	自分の考え通りにすること	友だち	先生	先輩	新聞・雑誌
(1) 進　路	1	2	3	4	5	6	7	8
(2) 将来の職業	1	2	3	4	5	6	7	8
(3) 受験勉強の方法	1	2	3	4	5	6	7	8
(4) 受験校	1	2	3	4	5	6	7	8
(5) クラブ・部活動	1	2	3	4	5	6	7	8
(6) 休日の過し方	1	2	3	4	5	6	7	8
(7) 異性との交際	1	2	3	4	5	6	7	8

〔V〕
(1) □
(2) □
(3) □
(4) □
(5) □
(6) □
(7) □

〔VI〕あなたは現在何か悩んでいますか。

1. 次のいずれかの項目に○印をつけて下さい。

1. 悩んでいる　　2. 悩んでいない

〔VI〕 1 □

2. 1.悩んでいると答えた方にうかがいます。

(1) あなたはどんなことで悩んでいますか。次の中から一つ選んで下さい。

1.進　路	2.勉強の仕方	3.成　績
4.身体・性格	5.家　庭	6.異性との交際
7.友人関係	8.生き方	9.受　験
10.その他（具体的に　　）		

〔VI〕 2 (1) □

(2) その悩みはあなたにとって重大な悩みですか。

重大な悩み	やや重大な悩み	どちらともいえない	あまり重大な悩みではない	全く重大な悩みではない
1	2	3	4	5

〔VI〕 2 (2) □

〔Ⅶ〕次の各質問に答えて下さい。

1. 中学生活でもっとも印象に残ったことはどんなことですか。

（具体的に　　）

2. 中学生活でもっとも楽しかったことはどんなことですか。

（具体的に　　）

3. 中学生活でもっとも悲しかったことはどんなことですか。

（具体的に　　）

ご協力ありがとうございました。

資　　料

NINETH GRADER'S ATTITUDES TOWARD THEIR DAILY LIVES

Toshio KUZE, Tadashi HARADA, Motomichi GOTO,
Shuji MIYAZAWA, and Katsumi NINOMIYA

The present study was aimed at investigating attitudes toward daily lives of the third grade students in a secondary school, based on the data from Kuze and Goto (1982). For 1272 students (655 males and 617 females) living in Nagoya City, a questionnaire concerning to educational course selections, interests and worries in daily lives, and the degree of satisfaction with school was given.

The main results were as follows:

(1) Students were highly concerned with "the entrance exam", "hobbies" and "friends", but they were indifferent to "the school events" and "the student council".

(2) The 65.8% of the students felt some worries, and a significant sex difference was found in the ratio of being worried: females worrying more than males.

(3) Students were satisfied with school lives as a whole, especially with "friends", "teachers" and "an atmosphere of the school and classroom".

(4) Many students frequently talked with their friends about "teachers or friends", "the entrance exam", "studying or achievement" and "popular singers or sports". "Political, economical and social affairs" were too hard to be topics of conversation with friends.

(5) Many students wanted to decide "future occupation", "club activities", "a way of spending holidays" and "interaction with opposite sex" for themselves. On the other hand, for determination of "educational course selections" and "high school to take an exam", students who conformed themselves to their teachers were more than students who wanted to decide by themselves.

Another analysis concerning worries suggested that in comparison with the students whose worries are related to educational course selections and the students without worries, the students whose worries were unrelated to educational course selections had more heterogeneous attitudes toward daily lives.